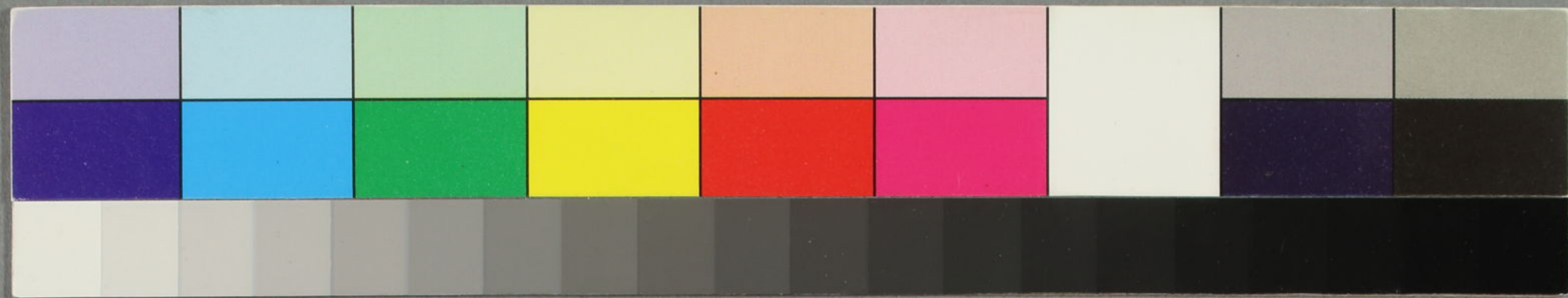


役者評判記

子13  
3849  
64





後者宝舟  
戸

後者宝舟  
京下  
森

後者寶舟  
京上  
森

京子  
利  
印

周談

多18  
206  
118

3849  
64

特



テ 13  
巻

役者室記

藝永定

○京社の目録



上は巻  
花はと切りと  
石垣所

取り巻の六  
そのの後見  
祇園所

大入の  
大和路

首

三

○大坂の目録

揚子敷の やうしき 勢田の せいでの 真上吉 まがしきち

棧敷の たいせき 敷の のついで 心人 こころし ねり ねり 吉 きち

別合の べつあひ 相合 あひあひ 揚 揚

系大坂三三系揚敷者同録

系大坂三三系揚敷者同録

系大坂三三系揚敷者同録

系大坂三三系揚敷者同録

● 惣巻首

▲ 尾上吉

真上吉 尾上吉

▲ 尾上吉

真上吉 尾上吉

真上吉 尾上吉

真上吉 尾上吉

真上吉 尾上吉

尾上吉

上主 中山 兼助 山

上主 川 おまじりのあまの 後日

上主 浪尾 貞次 おまじり

上主 三井 大次郎 おまじり

上主 尾上 宗七 おまじり

上 萬次郎 おまじり

上 浪吉 三郎 おまじり

上 浪吉 三郎 おまじり

上主 浪尾 五右衛門 おまじり

奥山の風がうらうら おまじり

上主 大谷 友之助 おまじり

上主 浪尾 國次郎 おまじり

上主 中村 元吉 おまじり

上主 浪川 隆次郎 おまじり

上主 浪尾 友次郎 おまじり

上主 浪 幸次郎 おまじり

上主 浪 忠八 おまじり

上主 浪 七五八 おまじり

上主 浪 六 おまじり

上主 浪 五 おまじり

上之辨之尾 小正 嵐門次 あり  
上中村 和之尾 小正 嵐法尾 あり  
上中村 門之尾 小正 嵐法尾 あり  
上中村 和之尾 小正 嵐法尾 あり  
上中村 和之尾 小正 嵐法尾 あり

▲老幼之部

上 考 雅 次 弟 三 崩

上 今 村 七 之 弟 崩

上 保 本 吉 次 郎 崩

上 淡 尾 為 右 衛 門 崩

上 伊 予 坂 正 房 崩

上 山 下 尾 吉 次 崩

上 淡 尾 吉 次 崩

▲若女形之部

上 芳 法 次 郎 崩

上 菟 川 友 春 崩

上 松 本 三 次 郎 崩

上 中 山 一 徳 崩

上 河 原 子 崩

上 中 村 金 次 郎 崩

上 山 下 尾 吉 次 崩

上 山 下 尾 吉 次 崩

上正 山ノ下秀乃流第 山崩  
いざなりつよもさるがま 人目

上正 坂本小徳流 山崩  
けささるのあひごあやう 山崩

上正 坂川徳流 山崩  
跡念へらして及ぶのこまごめめ

上正 山ノ下無之助 山崩  
何とめでたふてまうの 山崩

上正 中村徳流 山崩  
山ノ下も場もろく 山崩

上正 山ノ下徳流 山崩  
山ノ下は悪と刀さる 山崩

上正 山ノ下徳流 山崩  
山ノ下は悪と刀さる 山崩

上正 山ノ下徳流 山崩  
風俗の志あやふまゝ 山崩

極上正 澤村徳流 山崩  
山ノ下徳流 山崩

上正 山ノ下八百流 山崩  
女形一母りいむのよ 山崩

上正 沢村徳流 山崩  
か類のたぐひの掛あつて 山崩

上正 山ノ下徳流 山崩  
山ノ下も場もろく 山崩

上正 山ノ下徳流 山崩  
山ノ下も場もろく 山崩

上正 山ノ下徳流 山崩  
山ノ下も場もろく 山崩

上正 山ノ下徳流 山崩  
山ノ下も場もろく 山崩

上正 山ノ下徳流 山崩  
山ノ下も場もろく 山崩

上正 山ノ下徳流 山崩  
山ノ下も場もろく 山崩

上正 山ノ下徳流 山崩  
山ノ下も場もろく 山崩

▲ 嵐 然るゆたぬふり  
 一 谷井之谷 一 柳之木  
 一 谷谷とく 一 柳井之谷  
 一 山下徳之 一 三井中  
 一 中山徳之 一 嵐宗之  
 一 坂東岩之 一 嵐宗之

極上吉 流尾為十部 嵐

▲ 夜云 俗者之部

嵐三吉 宗川 九二部  
 並本 二部  
 並本 鳥平  
 並本 一平  
 並本 一平

嵐三吉 宗川 九二部  
 並本 二部  
 並本 鳥平  
 並本 一平  
 並本 一平  
 子終万部

○ 頭取口

一 坂角の支那 市川 常系久  
 一 坂角の支那 市川 常系久

江戸 市川 常系久  
 江戸 市川 常系久  
 江戸 市川 常系久

一 坂角の支那 市川 常系久  
 一 坂角の支那 市川 常系久

箱根靈驗秘傳 十一卷

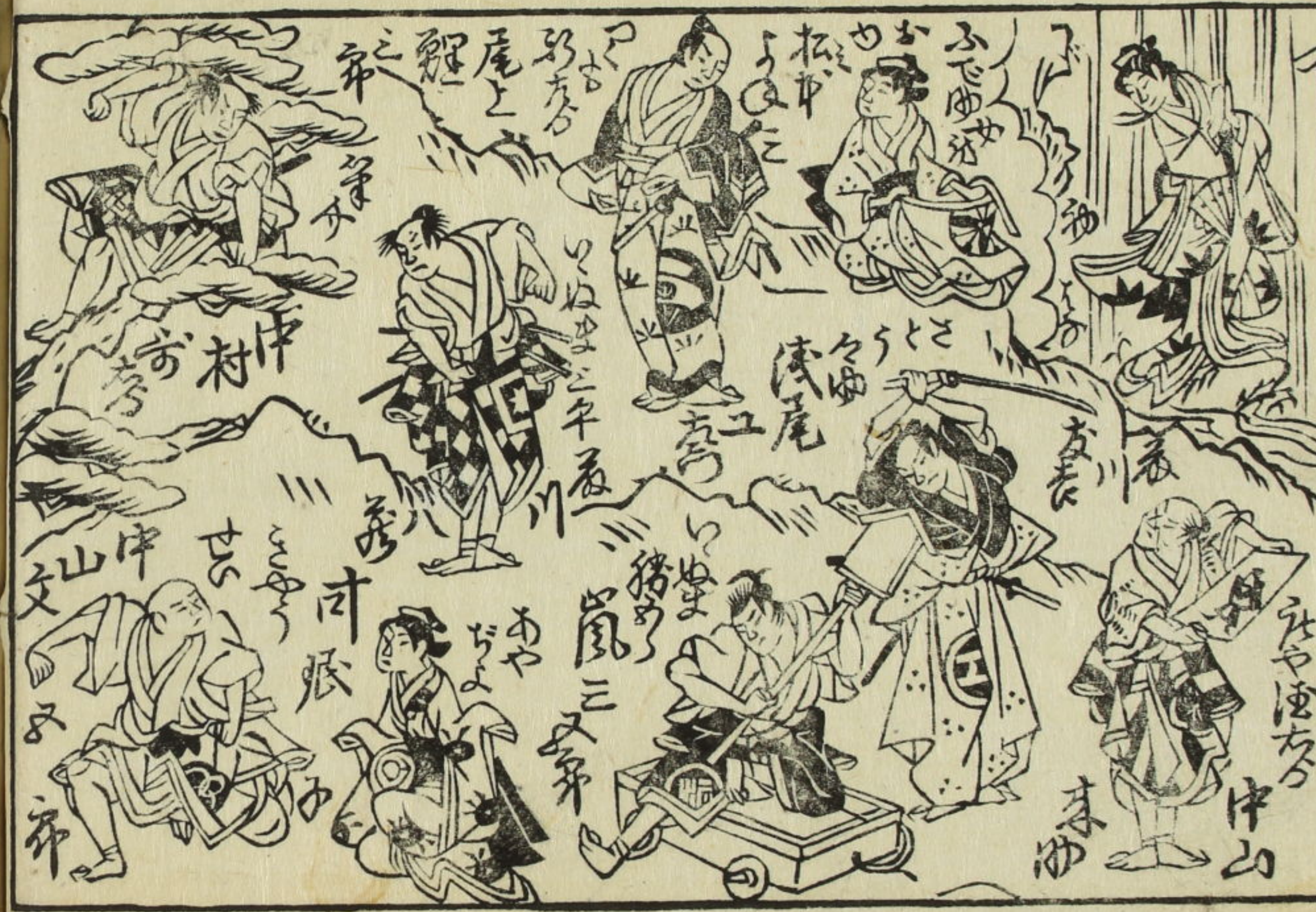
一 坂角の支那 市川 常系久  
 一 坂角の支那 市川 常系久





箱根靈驗傳  
尾上屋

十一番  
尾上屋



大西屋  
名代 松平名高 庄中中山西屋

箱根靈驗傳  
箱根靈驗傳  
箱根靈驗傳  
箱根靈驗傳

三三三  
長谷川寺  
三三三  
長谷川寺

東竹四三  
名代 橋本安房 庄中泉川清助

三三三  
三三三  
三三三  
三三三

三三三  
三三三  
三三三  
三三三

角屋三三  
名代 大和屋三三 庄中中村市重

三三三  
三三三  
三三三  
三三三

三三三  
三三三  
三三三  
三三三

大坂九條橋三宮病劫殺者目録

梅松栞 後三宮の事 三幅對

坂東堂書 竹田

婦川新田書 角丸

中山文書 大西

▲三宮三幅對

極上書 泉川楠書 竹田

貞上書 嵐山書 竹田

卯上書 山下京太書 大西

▲三殺之部

大上書 石村友九書 大西

上上書 谷村楠八書 大西

上上書 嵐山書 角丸

上上書 松浦四郎書 角丸

上上書 嵐川書 大西

上上書 山下相徳書 竹田

上上書 婦川總書 角丸

上上書 中山久書 角丸

上上書

石村松三書 大西

市川持十書 角丸

石村京書 大西

松浦孝三書 竹田

百村友書 大西

中村八右衛門書 角丸

谷村文次書 大西

市川甚之助書 角丸

▲三殺之部

上上書 松浦松太書 竹田

上上書 水本吉三書 角丸

上上書 行田國次書 大西

上上書 嵐川清太郎書 角丸

上上書 萩原信太郎書 大西

▲三殺之部

上上書 中村友三書 竹田

上上書 沢村國彦書 角丸

▲三殺之部

上上書 坂本三郎書 角丸

上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉

▲ 兼世部之部

松崎清彦 竹田  
谷村龜彦 大和  
谷村岩彦 竹田  
三耕康彦 大和  
河田助彦 大和  
坂東園彦 竹田  
徳崎政平 大和  
森野龜彦 竹田  
嵐池 市 大和  
泉川新四郎 大和  
泉川八十郎 大和  
市川門彦 大和  
望坂長彦 大和  
花桐千禧彦 大和  
中村吉彦 竹田  
嵐 团市 大和  
嵐村辰彦 大西

上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉 上吉

兼世部之部

坂川孝代 大和  
松崎徳彦 竹田  
中村吉彦 大和  
石村清彦 大和  
嵐 長彦 大和  
泉川長彦 大和  
泉川清彦 大和  
岩田安彦 大和  
松崎小四郎 竹田  
中村君助 大和  
森野長彦 大和  
山下守彦 大和  
市川徳彦 大和  
中村松彦 大和  
芳沢水彦 竹田  
谷村長彦 大和  
山下金彦 竹田

上上吉

中村 終末 六面  
中村 終末 竹内

上上

中村 市雲 終末

上上

中山 西雲 終末

上上

中村 仲茂 終末

上上吉

中村 仲茂 終末

大坂 天満天神 境内 五所 細工人 飛谷 貞徳  
その所の氣中の器りしりしり

上上吉

中村 市雲 終末

上上吉

中村 市雲 終末

上上吉

中村 市雲 終末

上上吉

中村 市雲 終末

上上吉

中村 市雲 終末

上上吉

中村 市雲 終末

上上吉

中村 市雲 終末

上上

龜谷 仲茂

上上

嵐市 市雲

上上吉

市川 市雲

上上

芳沢 八雲

上上

中山 市雲

上上

松尾 口の 虎

上上

荒木 与三 市雲

上上

芳沢 挺雲

上上

中村 市雲

上上

沢村 市雲

上上

その所の器りしりしり

大坂の住芝波共目録

大坂の住芝波 細工人 竹内 記  
立坂 貞徳 終末 終末

上書

上書

上書

上書

上書

上書

上書

上書

上書

上書

上書

上書

上書

上書

上書

上書

竹田秋砂

竹田京虎

竹田後山房

竹田香齋

竹田芳齋

竹田楠九郎

竹田榮齋

竹田虎齋

竹田万齋

竹田平齋

▲ 長女形之部

大書

上書

上書

上書

上書

竹田己之曲

竹田りは

竹田綿徳

竹田資久堂

竹田芳齋

そののちの略しし

○ 上

及曰各様方おのど洋利を多く等下

二の物初と書ははる多と書ははる多と書ははる多

田家初と書ははる多と書ははる多と書ははる多

初と書ははる多と書ははる多と書ははる多

と書ははる多と書ははる多と書ははる多

年初と書ははる多と書ははる多と書ははる多

初と書ははる多と書ははる多と書ははる多

と書ははる多と書ははる多と書ははる多

と書ははる多と書ははる多と書ははる多

と書ははる多と書ははる多と書ははる多

と書ははる多と書ははる多と書ははる多

と書ははる多と書ははる多と書ははる多

と書ははる多と書ははる多と書ははる多

と書ははる多と書ははる多と書ははる多





松樹の葉を食すは、<sup>一</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>二</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>三</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>四</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>五</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>六</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>七</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>八</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>九</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>十</sup>五穀に代りて食すべし

又、松樹の葉を食すは、<sup>一</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>二</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>三</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>四</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>五</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>六</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>七</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>八</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>九</sup>五穀に代りて食すべし  
又、松樹の葉を食すは、<sup>十</sup>五穀に代りて食すべし

本草 卷之三 松樹

松樹の葉を食すは、<sup>一</sup>五穀に代りて食すべし  
松樹の葉を食すは、<sup>二</sup>五穀に代りて食すべし  
松樹の葉を食すは、<sup>三</sup>五穀に代りて食すべし  
松樹の葉を食すは、<sup>四</sup>五穀に代りて食すべし  
松樹の葉を食すは、<sup>五</sup>五穀に代りて食すべし  
松樹の葉を食すは、<sup>六</sup>五穀に代りて食すべし  
松樹の葉を食すは、<sup>七</sup>五穀に代りて食すべし  
松樹の葉を食すは、<sup>八</sup>五穀に代りて食すべし  
松樹の葉を食すは、<sup>九</sup>五穀に代りて食すべし  
松樹の葉を食すは、<sup>十</sup>五穀に代りて食すべし



Handwritten text in a cursive script, likely Latin or a similar European language, with several words enclosed in square boxes. The text is written on a single page of an open book.

Handwritten text in a cursive script, likely Latin or a similar European language, with several words enclosed in square boxes. The text is written on a single page of an open book.



中山五帝  
 故...  
 三月廿九日

二山...  
 三吉...



全...  
 三...





藤原の孫朝子と云はは西の史に記し  
 子と云ふ事いふ事其後史の記に  
 事やの孫朝子と云はは西の史に記し  
 朝子と云ふ事いふ事其後史の記に  
 朝子と云ふ事いふ事其後史の記に

**上上書** ① 中山来由 小別

藤原朝子の孫朝子と云はは西の史に記し  
 朝子と云ふ事いふ事其後史の記に  
 朝子と云ふ事いふ事其後史の記に  
 朝子と云ふ事いふ事其後史の記に

**上上書** ① 法隆寺集次 小別

藤原朝子の孫朝子と云はは西の史に記し  
 朝子と云ふ事いふ事其後史の記に  
 朝子と云ふ事いふ事其後史の記に  
 朝子と云ふ事いふ事其後史の記に

**上上書** ① 後川八彦 小別

藤原朝子の孫朝子と云はは西の史に記し  
 朝子と云ふ事いふ事其後史の記に  
 朝子と云ふ事いふ事其後史の記に  
 朝子と云ふ事いふ事其後史の記に

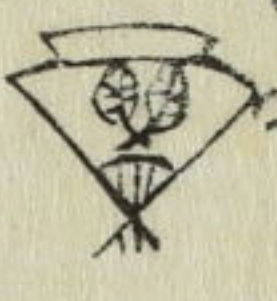
此の如く申す事は...  
[Seal] 三井大文庫  
[Seal] 上上



三井大文庫

上上

此の如く申す事は...  
[Seal] 尾上  
[Seal] 上上



尾上

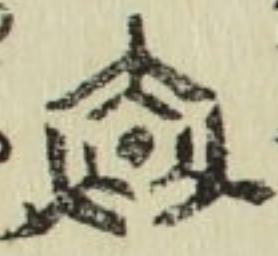
上上

此の如く申す事は...  
[Seal] 上



上

此の如く申す事は...  
[Seal] 上吉  
[Seal] 上上



上吉

上上



おのれいふおのれいふおのれいふおのれいふ  
がらばいふおのれいふ

○ 中一と申す

【題】 志まきいふおのれいふおのれいふおのれいふ  
いふおのれいふおのれいふおのれいふおのれいふ  
おのれいふおのれいふおのれいふおのれいふ  
おのれいふおのれいふおのれいふおのれいふ  
おのれいふおのれいふおのれいふおのれいふ  
おのれいふおのれいふおのれいふおのれいふ  
おのれいふおのれいふおのれいふおのれいふ  
おのれいふおのれいふおのれいふおのれいふ

寛政十三年酉二月四日

谷文

心學院賦神日詠信士 龍雅曲

寺ハ海川津を古

○ 一寸と申す

一 大坂中のまきと十月廿七日 歌世世  
一 びせんやま川 芳沢いりは  
一 指方女房を七海 中村奈奈を糸  
一 一り念女房を七海 中村奈奈を糸  
一 おい分のうゝ 山下三地を云  
一 らりいおさる 中村金屋を  
一 川 中村金屋を  
一 川 中村金屋を  
一 川 中村金屋を

○ 殺人留名の御書

一 又七女房を七海 山下八百を  
一 びせんやま川 芳沢いりは  
一 指方女房を七海 中村奈奈を糸  
一 一り念女房を七海 中村奈奈を糸  
一 おい分のうゝ 山下三地を云  
一 らりいおさる 中村金屋を  
一 川 中村金屋を  
一 川 中村金屋を  
一 川 中村金屋を





うけのしきもあつたをせしむるなりといふはなほ  
甲のちかぢい(1)のちかぢい(2)のちかぢい(3)はなほ  
いかにあつた(4)のちかぢい(5)のちかぢい(6)のちかぢい(7)  
のちかぢい(8)のちかぢい(9)のちかぢい(10)のちかぢい(11)  
のちかぢい(12)のちかぢい(13)のちかぢい(14)のちかぢい(15)

▲ 実歌 天歌 後 部

上上言 ⊕ 大谷友玄門 吉例

所全夜(1)のちかぢい(2)のちかぢい(3)のちかぢい(4)のちかぢい(5)  
のちかぢい(6)のちかぢい(7)のちかぢい(8)のちかぢい(9)のちかぢい(10)  
のちかぢい(11)のちかぢい(12)のちかぢい(13)のちかぢい(14)のちかぢい(15)  
のちかぢい(16)のちかぢい(17)のちかぢい(18)のちかぢい(19)のちかぢい(20)  
のちかぢい(21)のちかぢい(22)のちかぢい(23)のちかぢい(24)のちかぢい(25)  
のちかぢい(26)のちかぢい(27)のちかぢい(28)のちかぢい(29)のちかぢい(30)

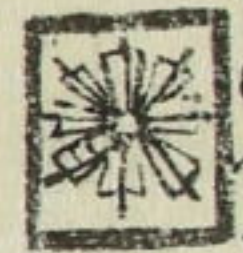
鹿史(1)のちかぢい(2)のちかぢい(3)のちかぢい(4)のちかぢい(5)  
のちかぢい(6)のちかぢい(7)のちかぢい(8)のちかぢい(9)のちかぢい(10)  
のちかぢい(11)のちかぢい(12)のちかぢい(13)のちかぢい(14)のちかぢい(15)  
のちかぢい(16)のちかぢい(17)のちかぢい(18)のちかぢい(19)のちかぢい(20)  
のちかぢい(21)のちかぢい(22)のちかぢい(23)のちかぢい(24)のちかぢい(25)  
のちかぢい(26)のちかぢい(27)のちかぢい(28)のちかぢい(29)のちかぢい(30)  
のちかぢい(31)のちかぢい(32)のちかぢい(33)のちかぢい(34)のちかぢい(35)  
のちかぢい(36)のちかぢい(37)のちかぢい(38)のちかぢい(39)のちかぢい(40)

上上 ⊕ 法尾團扇 十例

法尾(1)のちかぢい(2)のちかぢい(3)のちかぢい(4)のちかぢい(5)  
のちかぢい(6)のちかぢい(7)のちかぢい(8)のちかぢい(9)のちかぢい(10)  
のちかぢい(11)のちかぢい(12)のちかぢい(13)のちかぢい(14)のちかぢい(15)  
のちかぢい(16)のちかぢい(17)のちかぢい(18)のちかぢい(19)のちかぢい(20)  
のちかぢい(21)のちかぢい(22)のちかぢい(23)のちかぢい(24)のちかぢい(25)  
のちかぢい(26)のちかぢい(27)のちかぢい(28)のちかぢい(29)のちかぢい(30)

こせいのいふ言ひはまゝにうゝはあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

上上  甲村元虎 甲

ひさのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

せのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

上上  長川路太郎 甲

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

上上  淡尾友房 甲


あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

上上  貞平九郎 甲

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

上上



鼠田八 山物

本丸の... 鼠田八の... 山物... 上上... 中山文...

上上



中山文...

甲の... 本丸の... 鼠田八の... 山物... 上上... 中山文...

上上



青胆夜...

上上



今村七...

上上



三保...

上上



淡尾...



のみならず、[1] [2] [3] [4] [5] [6]  
[7] [8] [9] [10] [11] [12]  
 後には、[13] [14] [15] [16] [17] [18]  
[19] [20] [21] [22] [23] [24]  
[25] [26] [27] [28] [29] [30]  
[31] [32] [33] [34] [35] [36]  
[37] [38] [39] [40] [41] [42]  
[43] [44] [45] [46] [47] [48]  
[49] [50] [51] [52] [53] [54]  
[55] [56] [57] [58] [59] [60]  
[61] [62] [63] [64] [65] [66]  
[67] [68] [69] [70] [71] [72]

のみならず、[73] [74] [75] [76] [77]  
[78] [79] [80] [81] [82]  
[83] [84] [85] [86] [87]  
[88] [89] [90] [91] [92]  
 何れの大なるか

上上言  後(友者) 小例

[93] [94] [95] [96] [97] [98] [99] [100] [101] [102]  
[103] [104] [105] [106] [107] [108] [109] [110] [111] [112]  
[113] [114] [115] [116] [117] [118] [119] [120] [121] [122]  
[123] [124] [125] [126] [127] [128] [129] [130] [131] [132]  
[133] [134] [135] [136] [137] [138] [139] [140] [141] [142]  
[143] [144] [145] [146] [147] [148] [149] [150] [151] [152]  
[153] [154] [155] [156] [157] [158] [159] [160] [161] [162]

山崎闇斎の著作「蘭語訳撰」の序文。蘭語を漢字で表し、漢語を蘭語で表す。蘭学が盛んになった江戸時代、蘭語を学ぶ者が増え、そのために必要不可欠な辞書として編纂された。序文には、蘭語の重要性と、この辞書の目的が述べられている。

蘭語訳撰の序文。蘭語を漢字で表し、漢語を蘭語で表す。蘭学が盛んになった江戸時代、蘭語を学ぶ者が増え、そのために必要不可欠な辞書として編纂された。序文には、蘭語の重要性と、この辞書の目的が述べられている。

蘭語訳撰の序文。蘭語を漢字で表し、漢語を蘭語で表す。蘭学が盛んになった江戸時代、蘭語を学ぶ者が増え、そのために必要不可欠な辞書として編纂された。序文には、蘭語の重要性と、この辞書の目的が述べられている。

序文の署名部分。作者の氏名や居住地が記されている。

序文の下部にある小さな文字。

序文の下部にある小さな文字。











上

**精**

中村法華

小洲

上

**藏**

山下藤之丞

口元

上

**本**

山下隆公

口元

此の書は... 中村法華... 藤之丞... 隆公... 口元... 此の書は... 中村法華... 藤之丞... 隆公... 口元...

極上書

**◎**

天守閣

口元

此の書は... 天守閣... 口元... 此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...

此の書は... 天守閣... 口元...



三皮実魚。魚子丸

極上吉 ① 浅尾の干布 有

魚子丸の作りかたは、魚子を洗い、塩をまぶし、丸く成形する。これを浅尾の干布で包み、干す。干した後は、油をまぶし、揚げた後、砂糖をまぶす。魚子丸の作りかたは、魚子を洗い、塩をまぶし、丸く成形する。これを浅尾の干布で包み、干す。干した後は、油をまぶし、揚げた後、砂糖をまぶす。

魚子丸の作りかたは、魚子を洗い、塩をまぶし、丸く成形する。これを浅尾の干布で包み、干す。干した後は、油をまぶし、揚げた後、砂糖をまぶす。魚子丸の作りかたは、魚子を洗い、塩をまぶし、丸く成形する。これを浅尾の干布で包み、干す。干した後は、油をまぶし、揚げた後、砂糖をまぶす。

國文統よりさびかたなるをのめはひ  
 出で書かぬといふこと大なるかきつはな  
 のお便にかかれば天保國文統の事なるま  
 たらき後をさるるを別七はさるるに  
 てしに後をさるるをさるるにさるるに  
 出来たるは後の日をさるるにさるるに  
 てされたるを國文統の事なるま  
天保國文統の事なるま  
 出で書かぬといふこと大なるかきつはな  
 のお便にかかれば天保國文統の事なるま  
 たらき後をさるるを別七はさるるに  
 てしに後をさるるをさるるにさるるに  
 出来たるは後の日をさるるにさるるに  
 てされたるを國文統の事なるま  
天保國文統の事なるま

目録のしるし  
 〽

享和三年

戊午月吉日

八文字屋八左衛門  
 板元

Handwritten text in the right margin, partially obscured by a dark stain.

本正氏名目

名の所在事

Main body of handwritten text on the right page, including a list of names and their locations.

後者室記 藤原宗定

江戸の老目録

考了 実形と 款段の... 増岡

張人の 極めて... 次高

名代の 五志... 本提岡

江戸人言事柄也故有因縁

一博町 中村島之市庄

一博町 市村松之市庄  
一本松阿 河津持松之助庄

三額 市川白猿河津庄  
市川 白猿河津庄

極上吉 市川園松口庄  
市川園松口庄

大上吉 市川八百巻中村庄  
市川八百巻中村庄

上上吉 坂東三河市庄  
坂東三河市庄

上上吉 松中寺市庄  
松中寺市庄

上上吉 坂東八十曲河津庄  
坂東八十曲河津庄

上上吉 萩原市庄  
萩原市庄

上上吉 坂東三河市庄  
坂東三河市庄

上上吉 市川荒又市庄  
市川荒又市庄

上上吉 市川源之助市庄  
市川源之助市庄

上上吉 市川山崎市庄  
市川山崎市庄

上上吉 市川山崎市庄  
市川山崎市庄

上上吉 市川山崎市庄  
市川山崎市庄

上上吉 市川山崎市庄  
市川山崎市庄

上上吉 市川山崎市庄  
市川山崎市庄

上上吉 市川山崎市庄  
市川山崎市庄

上上吉 市川山崎市庄  
市川山崎市庄



上上

嵐新平 口元

猫のふのうををれつふを

上上

市川七虎 口元

上上

市川後彦 口元

上上

市川雲彦 口元

上上

仲村務彦 市村元

上上

坂東彦十郎 市村元

上上

市川小次郎 市村元

上上

市川右太衛門 市村元

上上

市川右太衛門 市村元

上上

市川右太衛門 市村元

上上

市川右太衛門 市村元

上上

市川右太衛門 市村元

上上

市川右太衛門 市村元

上上

市川右太衛門 市村元

上上

市川右太衛門 市村元

上上

市川友彦 口元

上上

相谷門彦 口元

上上

尾上松助 市村元

上上

尾上松助 市村元

上上

尾上松助 市村元

上上

尾上松助 市村元

上上

尾上松助 市村元

上上

尾上松助 市村元

上上

尾上松助 市村元

上上

尾上松助 市村元

上上

尾上松助 市村元

上上

尾上松助 市村元

上上

尾上松助 市村元

上上

尾上松助 市村元

上上

尾上松助 市村元

上上

尾上松助 市村元

鶏の獅子をさくく運毛

勝美してあらあ人のく櫛

都は清きとの死を喰ひて

花咲く春は尾上の春を

歌波く部

花は揺る蛇かうしと女を

中徳相田高 口元

は蛇とたんとをゆとらりか

松中彦十郎 市村元

松中彦十郎 市村元

松中彦十郎 市村元

松中彦十郎 市村元

松中彦十郎 市村元

松中彦十郎 市村元

松中彦十郎 市村元

松中彦十郎 市村元

松中彦十郎 市村元

工

三



有がたは安ねん入るるを

上上吉 中山屋常 中村

は風情をよつこのる

上上吉 中村天吉 口元

めづしいお路のくは

上上吉 岩井長次郎 口元

多押の家のおちや三日の月

上上吉 飯川徳三郎 市村

獲のよきとふくは獲るる

上上吉 市川園三郎 市村

初老や地神のあふるる

上上吉 飯川徳三郎 市村

世世下りてゆく

上上吉 山下万地 市村

小袖をきて候ふはあづま

上上吉 山下氏三郎 市村

風よりよきおちのり

上上吉 飯川徳三郎 市村

はくちのり

上上吉 市川たの江 市村

はくちのり

上上吉 市川吉代三 市村

小指のせとれあふるる

上上吉 尾上信三郎 市村

知とくはまらるる

上上吉 市川たの江 市村

岩井長次郎 市村

上上吉 岩井長次郎 市村

中村天吉 市村

上上吉 飯川徳三郎 市村

市川園三郎 市村

上上吉 飯川徳三郎 市村

市川園三郎 市村

上上吉 市川園三郎 市村

市川園三郎 市村

上上吉 市川園三郎 市村

今より宗子希や鬼の所

上上 虎之坂之希 口元

上上 其のやうにその子月もあ

上上 嵐 和之希 中村元

上上 大谷 甚次 口元

上上 嵐 吉吉 口元

上上 市川 吉藤 口元

上上 中村 七次 中村元

上上 中村 仲次 口元

▲中村元

一 岩井 勘之希 一 岩井 宗之希

一 坂本 龍之希 一 中尾 南松

一 中村 福吉 一 市川 右伝

一 市川 三吉 一 中村 吉次

一 嵐 小吉 一 中村 長吉

▲市川元

一 市川 元吉 一 市川 昌吉

一 市川 元吉 一 市川 昌吉

一 市川 元吉 一 市川 昌吉

一 市川 元吉 一 市川 昌吉

一 市川 元吉 一 市川 昌吉

▲市川元

一 坂本 勘之希 一 岩井 宗之希

一 坂本 勘之希 一 岩井 勘之希

一 坂本 勘之希 一 坂本 勘之希

一 坂本 勘之希 一 坂本 勘之希

一 坂本 勘之希 一 坂本 勘之希

一 坂本 勘之希 一 坂本 勘之希

一 坂本 勘之希 一 坂本 勘之希

一 坂本 勘之希 一 坂本 勘之希

一 坂本 勘之希 一 坂本 勘之希

一 坂本 勘之希 一 坂本 勘之希

一 坂本 勘之希 一 坂本 勘之希

▲三座院

仲村庄

瑞美山之布

市村庄

仲村册又布

坂东寺

坂东寺

市川

市川

坂东寺

坂东寺

坂东寺

坂东寺

坂东寺

坂东寺

▲  
即云他若之部

河内  
春  
濑川如翠

云井寺之

每竟臆也

竹篠田今次

龜山段次

田名系八

河内寺

務儀

中村庄

並本五能

折川忠義

藤原務介

並本段次

迎雲門齋

並本風作

今村吉介

号振正春

稻森之助

搦田源助

本左宗七

折原才次

村田吉八

田島出助

中舟免助

畠丹次

鳥岸泉次

坂倉三次

清水正七

村園幸次

市村庄

河内寺

五七

▲中村と申す方々

一 寺 西高子産一口 墨安寺

一口 中村安寺一口 中村安寺

一口 西高子産

一 産 〇や山寺一口 〇や山寺

一口 〇 浅草一口 〇 浅草

一口 〇 寺寺一口 〇 寺寺

一 寺 吉田布方一口 墨田市

一 寺 田中坊十口 小泉寺

一 寺 坂田寺一口 坂田寺

一 寺 佐田新七一口 佐田新八

一 寺 坂田寺

▲市村と申す方々

一 寺 芳村坊十口 寺 〇や山寺

一口 相馬坊十口 〇や山寺

一口 吉田坊十口 〇や山寺

一 産 津や敷産一口 〇や山寺

一口 津や敷産一口 〇や山寺

一口 〇や山寺

一 寺 墨田寺

一 寺 西川坊十口 中川坊

一 寺 吉田坊十口 〇や山寺

一 寺 佐田又七一口 佐田新七

一 寺 〇や山寺

一 寺 市村七口

▲河東清産と申す方々

一 寺 墨田寺

一口 〇 横寺一口 〇 横寺

一口 墨田寺

一 産 〇や山寺

一口 〇 万壽寺一口 〇 万壽寺

一口 〇 横寺一口 〇 横寺

一口 〇 寺寺一口 〇 寺寺

一 寺 西川源寺

宝 工



東風よりあまの梅の葉の  
わらう法衣の数のまじり

二箇巻出初九十六年程

○又や中世より山にわたるの法村成  
り為地と名付の大きき者初よりあ  
るはと道世相実のゆゑの如名  
法村田にゆきて中村をたむはまて  
出りまじりて室曆十辰のまじりる  
のやりの後世役まで初よりゆゑの  
初つゝ系太海のつゝあまてわくあ大  
き者よりあまの世のあまの世の  
世にまじりてあまの世のあまの世  
あまの世のあまの世のあまの世  
申のあまの世のあまの世のあまの世  
大徳のあまの世のあまの世のあまの世  
痛直のあまの世のあまの世のあまの世  
つゝあまの世のあまの世のあまの世

おびいおまにしようぬやまの  
麻らあまの世のあまの世のあまの世  
ここのよかとおまの世のあまの世  
あまの世のあまの世のあまの世  
あまの世のあまの世のあまの世  
あまの世のあまの世のあまの世



遊心院傾輿西天

法村家系  
初年早多

享和元年 酉天之月十九日

寺法庫物之処寺中定用院

法衣のあまの世のあまの世のあまの世

辨世

あまの世のあまの世のあまの世

あまの世のあまの世のあまの世





しるしあり紙より男女のまじりて  
ふりせしむるに合ふるものなり  
又一身あがりて一はちやて細  
紙より入りのまじりてあやう  
ふりせしむるに合ふるものなり  
可き度度めんして指子とそらへて  
きくねてきくと少納の蓋もきく  
ひくぬるものなりや神事の別  
記よりあがりてあやうなる  
合せしむるものなり  
巻のまじりては神のまじり  
ありきとけりけりなまあり

言の和二年

戌の初巻

▲酉年中三座狂言目録

○中村座

二月  
一 假名手本忠臣藏 市川團藏 七役勤

三月  
右十辰目

又月十辰目  
二 妹背山婦女庭訓 中山安太郎 出勤

辻花戀待合 合鏡 合鏡

九月十八日  
一 源平布引籠

又二 振袖隅田川 市川團藏 志のぶらり 妙経

口つて  
一 けいせき友薨番 市川團藏 志の又平

以上

○市村座

一 通花街馴初曾我

市川八百巻  
出勅

一 比良嶽雲見陣立

つぎ 深松桃櫻舞帯

十二月十二日

一 金盃伊達曲輪入

伏村宗幸進寄市川八百巻  
松の内ミキ侍とおつと

市川八百巻  
坂東之澤  
出勅  
嵐新平

一 祇園祭禮信仰記

正月同大々々

子三右衛門彦次侍

一 敵討鰐鴈的

八月十九日  
十  
堂 嵩田實疊

以上

○河原侍座

一 的當歲初宴曾我

二月八日

口つとさ系辰折

口七ヤク

口 梅の由之入

二月八日

一 泉之花吉岡染

七月十五日

一 妹脊山婦女庭訓

八月十二日

家持進寄場系下  
四季の他あり

一 假名手本忠臣蔵

市川八百巻  
出勅

以上



伊達 對 鶴

中村 氏



男 哉 婦 將 門

市村 氏



名 歌 德 三 外 玉 垣

市川 氏



○當頼屋三度者頼後到 方のごとく

十二月廿二日

伊達公節對面鶴

中村彦 伊達彦

役人指名

一 山本右衛門 山本

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 尾形右衛門 尾形

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

一 中村右衛門 中村

洋尚理  
孔雀深能

夫富布村之方夫  
曰 和泉方夫

之  
和泉里久

曰 夏野方夫

曰 里衣

夫富布 富之布 夏野 赤城  
おつめやゆ

男哉婦將門  
市村 四志

殺人留名

秀乃乃方松房之兄  
紀徽人方志河也

瀬川路考

和門喜い

松本吉四郎

係着方ひでこ  
牛飼八郎の妻五右衛門  
瀬川路考

伊藤極と

萩野修之助

六郎和さんつ

後川武方

和門めのとこしら  
小田本七んせん

瀬川路考

伊達乃乃方松房  
小田本七んせん

瀬川路考

六郎和さんつ  
九条中の子らよ

尾上香田

山邊乃乃方松房  
香田三三郎也

市川七郎

香田乃乃方松房  
香田乃乃方松房

坂田修之助

和門乃乃方松房  
和門乃乃方松房

市川團十郎

和門乃乃方松房  
和門乃乃方松房

之上のわしやぬ

一 乃ぜんた八 嵐三八

一 六孫王つひり 男青系十帝

一 吉和田宮く

一 淨尚理

紅葉傘時雨振袖

大夫富本豊前次 三保時玄助

口手月 大和玄次 口 清八

日 志満玄次 石 分待 未惣三

路之助 源之助 路之助 路之助

三喜正常 路考 おつとあ中

十一月七日

名歌徳平王垣 河津時元 四七歳

殺人留名

一 白浪浦坊若良就 市川白猿

一 実又徳の玄因 市川白猿

一 般美あつ母定

一 又成之帝正徳 市川團扇

一 西ふ流心正徳

一 系や女おとん 岩井之系之帝

一 有師其美路おつと 坂東之流之帝

一 惟徳親の正徳又 坂東之流之帝

一 実あつお宗貞 又谷徳次

一 高介の正下つと又

一 又びらく母坊うのん 山手徳之助

一 紀の重之助初も 市川北の印

一 二れさうまんま 相の谷門系

一 大ももの山内 坂東流之帝





此の三巻大入の形見無因出  
くく書物也

享和二年

戌正月吉日

京都

平福屋

表太右

扱

八文字屋

八右三

元



